

校内研究だより

町田市立金井小学校
2018年10月23日
研究推進部

図工の研究授業は、2人での共同作業は、～対話的な学びを通して～の研究テーマに即した内容でした。校内の先生方からも自分の思いを上手に伝え、相手の思いをくみ取りながら楽しく活動していたことが感想にたくさん挙げられていました。協議会では、学級担任との連携の様子も分かり、母袋先生の想いも知ることができました。

子供の姿	教師の指導	その他・共有したいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで仲良く協力し合ってイメージを広げていた良かった。(5) ・「これはどう?いいね。これどうつかう?俺たちもあれやってみよう」などお互いに確認し合っている、助け合っている姿。相手意識がある。(5) ・子ども達が対話の中で材料などを自分たちで決めていたところがよい。 ・ライトの前で確かめながら相談して修正、追加して二人の世界を付くっていた。(3) ・自分たちの作品に愛着をもって友達の作品の良い点を取り入れながら、自信をもって作り上げていた。(2) ・ペアだからこそその発想が出されていたので良かった。 ・4時間目を比べてみても、どんどん作り変え良くなっていくのが分かり、対話していた。(2) ・ホチキスを開いて枠にとめる」など、子供のもっている道具をととても生かしてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むためのペアリング。お互い尊重し合う雰囲気があった(9) ・ゴールイメージを持たせている。(時間・活動内容・二人でどこまでするのかの見通しをもたせているので、安心して主体的に活動できる。(3) ・図工の授業準備が毎回されているため、子供の作業時間が充実している。 ・先生の支援のあたたかさが伝わる。 ・母袋先生が机間巡視しながら認めたり、作る助言したりして、それによって作品が仕上がる様子が見られた。 ・子供の発表タイムで、工夫したことを先生が全体に広げる声かけで良さに気付くことができた。 ・作品紹介の時に工夫や材料の使い方をなども伝えることができ、良かった。 ・板書が分かりやすい。何をするか書かれているため活動しやすい。 ・落ち着いた声で指示もよく通っていた。 ・子供対のつぶやきもしっかり覚えていたので安心して取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は図工室のルールを守ってペアで話し合いながら作品をつくっていた。 ・十分な種類と材料があり、選びやすく、使いやすく教室環境を整えている。(5) ・見ただけで子ども達の「こうしたい!」がわき上がる工夫がされている。子供の発想を助けている。 ・安心して学習活動ができるよう、場の工夫や流れの工夫があってよかった。(メモ、材料)やりたいことが実現できる図工室だから、子供もたのしい。(5) ・話し合いに作業が加わると、一人一人の個性の違いなど活動パターンが多様に表れてとても興味深い。 ・学び合える空間があった。 ・土台の枠も全て手作りで、子供の活動に合わせた大きさで良かった。(2) ・手順がしっかり子ども達に入っている材料も使いやすくなっている ・子ども達の自由な発想を先生が大切にしているのが分かる。まねしたい。
<p>Q二人の世界に違いが生じたケースは無かったのか?→事前アンケートや担任とも打ち合わせしたりして協力し合えるペアを考えた。</p> <p>Q個別の対応の子への手立ては?→ペアの子の助けや友達の参考にしたいこと、まねをしても全く同じにならないのでよい。</p>	<p>△最後の発表では、何を話すのか始めに内容を伝えておくと安心して手が上がったと思う。(何をつくりました。どこを工夫しました。～を頑張りました。など)また、参考にしたいところを探そうなど視点を伝えてから見合うとよい。</p> <p>Q教材準備が素晴らしい。どのくらい時間をかけているのか?→初めてやるもの・オリジナル題材は試しづくりを必ずして、そこから材料用具の吟味・与え方・導入などを検討する。具体的にどのくらいの時間かは…不明。</p>	<p>△せっかく準備してあるのに切れないハサミ(刃が欠けている)→スズランテープは切りにくいので、束ねるようにして持ってはさみを上に持ち上げるようにして切れることを一応指導はしています。でもなかなか難しいです。</p> <p>Qペア作品の場合の評価の仕方はどうなるのか?→共同でも普段と基本的に同じで個の姿をよく見る。積極的に取り組んでいるか、自分の発想をもっているか、素材と十分にに関わりながら試行錯誤しているかなどを見て評価する。</p>

講師：横浜国立大学准教授 大泉義一先生の指導講評より

— 新学習指導要領と 共に認め合い、学び合う学級 —

1. 主体的・対話的で深い学び

中教審 「解き方が予め定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分」

⇒これから求められる学びは「主体的・対話的で深い学び」

「参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学び合ったり創り出したりする学びと創造のスタイル」である「ワークショップ」は、まさに「主体的・対話的で深い学び」である。

～ワークショップ実践～

全員で、アルミホイルを使ったワークショップを行い、体感した。

- ①先生ではなく、ファシリテーターがワークショップを促進する
- ②その場にいる全員が参加者で、お客さんはいない（主体的）
- ③初めから決まった答えはない（意味や価値をつくり出す）
- ④頭が動き、体も動く（深い）
- ⑤交流と笑いがある（対話的）

出来上がった作品やコメントカードなどで評価するのではなく、主体的対話的に取り組んでいる姿＝学びの過程をみとることが大切。

2. 造形的な見方・考え方

「感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」

～カタピンゴ 実践～

提示された形をもとに、マスター(代表者)がその形から発想したものを表し、皆はマスターの発想したものを予想して表す。

⇒様々な答えが出てきて、全員が同じ答えにはならない。

しかし、その多様性やいろいろな見方・異なるイメージを共有することが図画工作科の考え方である。

★図工に求められるものは、イメージのクリエイティビティさ

⇒造形的な見方・考え方の中で大切なのは、「感性や想像力」「自分のイメージ」「意味や価値をつくりだす」こと。各教科の見方・考え方でも、その教科を示す部分（図工であれば「形や色などの造形的な視点で捉え」の部分）以外のところに大切なことが示されている。

★言語化されることが目的ではなく、まずは表現すること。その中に対話が生まれていく。

3. 今日の授業より

○様々な表現をする中、過程の中で、「試す」ことが大切な授業だった。

ONくんとSくんが教えてくれたこと⇒「最初に試して失敗して、だからこの方がいいとわかった！」

児童は、試し、失敗し、学びを獲得していった。

○子供の3つの「できたよ！」を受け止める。 ⇒ 作品ができたよ！

イメージができたよ！（プロセスを見ること）

わたしができたよ！（私を見て！）

※協議会后のお話の中で…

○専科として、学級担任との連携を一つの柱として掲げ、指導案の中にも項目として立てて明記していくとよいのではないか。一つの授業は、学校全体でつくっていく。